

Care & Communication

Care & コミュニケーション

C O N T E N T S

<p>THE FRONT LINE</p>	 <p>P1-2</p>	<p>質の高いインプラント治療と居心地の良いファミリー性にこだわる オリーブ デンタル ハウス 院長 佐藤 孝弘 先生</p>
<p>P3-4</p> 	<p>INSIDE REPORT</p>	<p>夫婦で協力し合い、10年を節目に診療と経営をブラッシュアップ いまもと歯科 院長 今本 道也 先生 副院長 今本 素子 先生</p>
<p>DOCTOR'S TALK</p>	 <p>P5-6</p>	<p>徹底した「痛くない治療」のために新しい技術にも意欲的にチャレンジ 高島歯科クリニック 院長 安日 純 先生</p>
<p>P7</p> 	<p>DENTAL REPORT</p>	<p>デンタル世界紀行 Vol.2 タカハシ・デンタルオフィス 院長 高橋 登 先生</p>

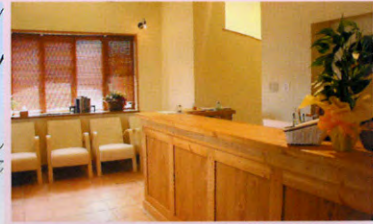
壁や窓枠の色、瓦にまでこだわった外観



入り口にある看板



木を多用した温かみのある受付



受付横にあるカウンセリングルーム



扉のデザインや雑貨の配置にもこだわる



(上) 家庭的な雰囲気のある受付回り
(下) 久美子さんがデザインしたマスコットのオリーブちゃん



患者から贈られたウェルカム・オーナメント

質の高いインプラント治療と居心地の良いファミリー性にこだわる

オリーブデンタルハウス 院長 佐藤 孝弘 先生

インプラント中心のていねいな治療と懐の深いコミュニケーション力で3ヵ月先まで新規予約がとれないほどの歯科医院となっているオリーブデンタルハウス。その人気の秘密をうかがってみた。



佐藤 孝弘 院長



佐藤 久美子さん



美しい診療室を保つため、診療が終わったらすぐに器具をしまう。特注で作製したキャビネットもある



器具や消耗品の収納のデザインにもこだわる



CT室。佐藤院長はCTやインプラントセミナーの講師も務める

歯科医院としての機能より 患者の居心地を重視

広々とした敷地の奥に建つ瀟洒な一軒家。芝生の庭が広がり、一見、イタリアンレストランかと思うような外観だ。扉を開けると、木がふんだんに使われた気持ちのいい空間が広がる。「一日でいちばん過ごす時間が長い場所ですから、好きなものにこだわって作ったら、歯科医院らしくない造りになりました」

と、佐藤孝弘院長は笑う。佐藤院長の専門がインプラントのため、もともと大型の歯科医院は考えていなかった。歯科衛生士である妻の久美子さんと話し合い、2人で出した結論は、院名の「デンタルハウス」の通り、自宅に患者を招き入れるような、ファミリー性の高い歯科医院にしようということ。そのために、瓦やドアの建材、木製のブラインドなど細かい部分までこだわった。「セオリーに反してばかりいたので、何軒も歯科医院を建ててきた設計士さんにあきれられました。働く人間には動きにくい構造ですが、私たちが動いて補えばいいこと。歯科医院の機能より、患者さんの居心地を重視した結果ですから、満足しています」

試行錯誤を重ね、ようやく 目標の診療スタイルに近づく

開業当初はレストランと間違える人がいたり、子どもの初診患者が多く訪れることもあった。しかし、次第に目標としていた、インプラントを中心にしたじっくり診療できる大人のための歯科医院としてのスタイルを確立していく。

「開業から2年経った最近になって、ようやく僕たちの目指す歯科医院になりつつあるところ。それまでは、患者さんにどう理解していただくかと、試行錯誤の連続でした」

同医院の患者さん1人にあてる診療時間は最低1時間が原則。ユニット2台を2人の医師が管理し、久美子さんとスタッフの女性1人がサポートしている。少数精鋭の診療を目指しているため、スタッフを増やす予定はない。

「最近専門を生かし、分業化する方向に流れているので、僕の方針は時代と逆行していると思います。でも、僕は一人の患者さんのすべてを自分で診たいタイプ。スケーリングやブラッシング指導も歯科衛生士に任せず、自分で説明したいんですね」

となれば、1日に診る患者数は限られ、急患にもそうすぐには対応できない。「痛い」と駆け込んできた患者になかなか理解してもらえず、怒られることもあった。しかし、院内やホームページを通じて、根気よく説明を続けた。

「今はホームページをご覧になったり、患者さんの紹介でいらっしゃる方が多いので、かなり落ち着きました。患者さんの希望もインプラントを中心とする補綴か前歯の審美を求めてくるケースがほとんど。初診が3ヵ月後になることもあるのですが、『それでもいい』とおっしゃってくださるので、ありがたいですね」

保険、自費にかかわらず 美しい歯を仕上げるのがモットー

オリーブデンタルハウスの人気の理由は、保険と自費を区別せず、美しく仕上げていることがある。

「問診票で自費と保険を区別するのはおかしいと思うんです。患者さんに最適な治療法を模索するのが先決。その後で自費か、保険かの選択になる。治療法を複数、提示し、詳しく説明した上で選んでもらえば、患者さんもよりよい治療を望んでいるのですから、納得して自費を選ぶケースが多くなります」

また、保険の場合も仮歯は歯科技工士に依頼し、自費並みの仕上がりにしてもらおう。たとえば、前歯で治療箇所が複数ある

ケースなら、問題のある歯を一気に治療し、仮歯にすることが多い。仮歯でも美しい歯を手に入れると、患者は自費として入れようという気になってくる。ベストな治療の結果を仮歯でシミュレーションしてみせると、患者の意識は大きく変わるのだという。「経営的には採算は合いません。でも、美しい歯は最高の宣伝効果があります。とくに女性の患者さんへの説得力は抜群です」

複数の歯の治療を一気に進めるためには、まとまった時間が必要だ。時間のやりくりをどうするか。それが今の悩みだ。

そこで、こんな工夫も取り入れている。初診までは時間が空くが、治療の開始後は1週間に1度のペースで治療し、短期間で終わらせるのだ。予約も2、3回分まとめて決めてしまう。ゴールが明確になると、患者も通院のモチベーションを保ちやすくなる。

ホスピタリティ精神のある コミュニケーション技術を磨く

オリーブデンタルハウスの居心地のよさは、久美子さんの気配りによるところも大きい。久美子さんは、歯科衛生士の資格を取得したあと、ユニクロで働いたことがある。将来の開業を見据えて、歯科業界以外の世界も見ておきたいと思ったのである。「挨拶はマナーの基本。『ごくろうさま』を外部の人に使ってはいけないといった暗黙の了解もあります。でも、意外に歯科業界では、挨拶の基本さえ徹底していないことがある。社会人としてのマナーを身につけながら、売上と経費の相関関係など、ビジネスの基本を学んだ経験は今、とても役に立っています」

現在も久美子さんはコミュニケーション技術を磨きながら、北欧で感染管理などの研修も重ねている。これらの経験が買われ、歯科衛生士を対象にした研修会の講師を務めることもある。

佐藤院長のホスピタリティ精神も久美子さんに負けてはいない。ホームページでは、ユーザーからのよろず相談やセカンドオピニオンを受け付けている。実際の症例を見ていない立場では断言しにくいものだが、可能な限りの情報を伝えたいと踏み込んだ回答をすることも。その熱意に惚れ込み、遠く仙台や大阪から訪れる患者がいるほどだ。

「誰でもウェルカムな歯科医院ではありませんが、診療方針を気に入ってくださる方であれば、地域にこだわらず受け入れる。それが私たち流のウェルカムなのかもしれないですね」



厳格なヨーロッパ基準に準拠した滅菌機とウォッシャー・ディスインフェクターを導入

佐藤院長と久美子さんとスタッフのみなさん。ユニフォームにはパティン工用を活用



Profile

佐藤 孝弘 先生

- 1996年 新潟大学大学院歯学博士
- 1998年 新潟大学歯学部助手、インプラント外来代表
- 2005年 新潟大学歯学部付属病院インプラント外来登録医
- 2005年 olive dental house (オリーブデンタルハウス) 開院
- ITIメンバー
- OJ理事
- 日本補綴歯科学会認定医
- SJCD新潟理事
- 日本顎咬合学会指導医
- 日本口腔インプラント学会会員
- 新潟大学歯学部非常勤講師

olive dental house (オリーブデンタルハウス)

住所:新潟市中央区神道寺1-1-24

TEL:025-243-7761 HP:http://www.olive-dental.com/hp/

夫婦で協力し合い、10年を節目に 診療と経営をブラッシュアップ

いまもと歯科 院長 今本 道也 先生 副院長 今本 素子 先生



今本 道也 先生 / 今本 素子 先生

インターネットなどの発達で、いまや患者の志向は地域差がなくなっている。

そんなニーズに応え、夫婦で力を合わせ、全国トップレベルの診療を行っているいまもと歯科をたずねてみた。

地方のハンデを跳ね返し、 全国トップレベルの診療を展開

開口一番、「ビル一つない田舎町でびっくりしたでしょ?」と笑う今本道也院長。いまもと歯科があるのは、博多駅から特急で約40分のみやま市。農家が多いのどかな地域だ。

いまもと歯科の外観もとくに目立つわけではない。しかし、院内ではインプラントから審美、予防まで幅広い治療が行われている。それもそのはず、今本院長は、歯科スタディグループ福岡SJCDの前会長であり、最新かつ、質の高い治療を心がけている。

「今は地方でも東京と同じくらいの情報を持っている。患者さんのニーズに応え、地域医療に貢献するのが開業医の努め。地方だからできないと言われるのが悔しくて、貪欲に勉強しましたよ」

開業は23年前。初日から患者が殺到。口腔外科で研鑽を積んでいたものの、しばらくは受付を担当する予定だった妻の素子副院長も診療に当たることになるほどの患者が訪れた。恵まれたスタートだったが、悩みもあった。

「便利屋的な歯科治療でいいのかと疑問を感じるものの、主訴を治すのでせいっぱい。体力的にもきつい日々でした」

そんなとき、高レベルの技術を駆使し、一口腔単位を総合的にとらえながら治療のゴールを目指す「SJCD」に出会う。今でこそ主流の考えだが、18年前は画期的な発想だった。すぐに今本院長は素子副院長とSJCDの研修を受けることを決意する。

スタッフ全員が退職する危機を システム改革のチャンスに変える

研修後、院内のシステム改革に取り組むが、すぐに問題にぶつかった。スタッフたちの理解が得られないのだ。説得を試みるが、なんと全員が退職するという事態を迎える。

「結果的には災いが福に変わった。徐々に変えるのは時間もお金もかかる。変えるんだったらスパッと切り替えるべきなんです。ユニットも5台から4台に、素子先生と僕が2台ずつ、目が十分に行き届く範囲に減らしたのも同時期でした」

患者の反応は、といえ、患者が密かに抱いていた「一生、自分の歯で食べたい」願いを的確にすくい上げる結果になった。「口腔全部のパノラマを撮影し、データを診療だけでなく、患者さんの説明ツールとしたことが大きかった。原因を口腔全体の視野から説明すると、こんな詳しい説明を聞いたのは初めてと言う方がほとんど。理解が深まれば、ベストな治療法も分かっていた。自費が増え、また今は保険診療でも、将来は自費にしたいと言う方も増えることになりました」

開業当時、1日百数十人もいた患者が今は30~40人。しかし、売上はまったく変わっていないという。

10年ごとにブラッシュアップする 「第二開業」のすすめ

今本院長は、開業10年目の歯科医師を対象にした講演会で講師を務めることも多い。テーマは「第二開業のすすめ」。「ユニットのリースが終わっても、使い続ける人がほとんど。しかし、将来を考えたら、買い換えるべきです。時代も治療技術もどんどん変わる。10年間の診療を通じて、学んだことも多々あるはず。それらを生かせる設備に改装すべきなんです。最新の設備になれば、スタッフや患者さんも喜ぶ。10年ごとに新たなスタートを切ることは、ステップアップのチャンスなのです」

また、歯科技工士3人を活用する立場から経営のヒントとして、院内ラボの活用にもこんな苦言を呈する。せっかく歯科技工士を抱えているのに、なぜ利益率の高い自費を外部の技工所に出す歯科医院が多いのか、と。

「それでは技術料を患者さんからいただいても、利益が残らない。利益率について、もっとシビアに考えるべきでしょう」

女性スタッフの力を生かす きめこまかな心配り

開業当初から、抜群の協力体制で歯科医院を盛り立ててきた今本院長と素子副院長。治療面では、素子副院長が根管治療と外科治療を担当。その後、補綴の形成を今本院長が引き継ぐスタイルだ。

また、経営面は今本院長が、女性スタッフのケアは素子副院長が担当している。予防も重視した診療スタイルでは、歯科衛生士や助手の力も患者の満足度を大きく左右する。優秀なスタッフに長く勤めてもらうことが不可欠だ。そこで、いまもと歯科では採用時、学生時代の出欠表を最も重視する。欠席がない学生は歯科医院でいちばん困る無断欠勤がなく、コツコツと技術を磨くからだ。

「責任のある仕事を任せることも大切。給与や休日の確保も重要ですが、それ以上にやりがいのある仕事を求めています。プロとして認める姿勢がやる気を引き出すのです」(素子副院長)「歯科医師はスタッフがいるからこそ、歯科医院が成り立つ気持ちをお互いに忘れないこと。スタッフは1日のうちで一番長く過ごす場所なのだから、お互いを思いやる気持ちを忘れないこと。患者さんがいて、DT、DH、DAみんなの協力があって、最高の治療が成り立つことをそれぞれが忘れなければ、本当に素敵な「歯医者さん」になれるのです」(今本院長)

最後に今本院長は、経営に悩む歯科医師にこんなアドバイスも。「成功している歯科医院に見学に行く人は多い。しかし、必要なのは自分の歯科医院の問題点を見つけること。それには、経営が分かる人にチェックしてもらうのがいちばんいい。また、自分ができること、できないことを判断するための知識も欠かせない。日々、勉強を怠らないことがなによりも大事です」

駅から徒歩10分ほどの距離にある



受付には責任感の現れとして医師とスタッフの名前を掲げている

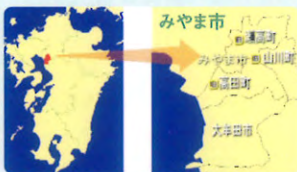


待合室にはポスター等を貼らないのがモットー

現在、ユニットは4台。低いパーテーションで区切っている



飾りは絵画のみ。治療に徹したユニット回り



セミナーでは自院の説明に地元を紹介することもある



スタンダードなスタイルの診療室



今本院長と素子副院長とスタッフのみなさん

Profile

今本 道也 先生

- 1980年 福岡歯科大学卒業
- 1980～1984年 久留米市の歯科医院に勤務
- 1984年9月 いまもと歯科を開業
- SJCD会員
- 福岡SJCD監事(前会長)

今本 素子 先生

- 1979年 福岡歯科大学卒業
- 1979年 長崎大学医学部歯科口腔外科医局に入局
- 1982年 久留米市の歯科医院に勤務
- 1984年より現職
- 福岡SJCD会員

いまもと歯科

住所：福岡県みやま市瀬高町文廣1540-3 TEL：0944-63-7631 HP：http://www.imamoto-shika.com/

徹底した「痛くない治療」のために 新しい技術にも意欲的にチャレンジ

高島歯科クリニック 院長 安日 純 先生



安日 純 院長

「痛くない治療」と一口に言っても、実際の治療現場ではさまざまなアプローチ法がある。新しい技術に積極果敢にチャレンジし、患者に最もよい治療法を追求する高島歯科クリニックを訪ねてみた。

「削らずに済む治療はないか」 その一心で治療法を模索

歯科医師になったときから、有髄歯を削ることや麻酔に抵抗があったという安日純院長。補綴物を作るために健康な部分まで削らなければならないことや、どんなに慎重に行っても麻酔液を注入するときの圧痛を患者に与えることに対して納得できなかった。

「知識では理解しても、患者さんの立場で考えると、心理的に納得できないんです。いかに削らずに治療するか、いかに抜髄しないで済む方法はないかとばかり考えていました」

教科書的な治療に満足できなかった安日院長は、日々、削る部分を少なくする治療を追求する。ときには、歯科技工士と何時間も激論を交わすこともあった。

そんな日々のなか、安日院長は、「Kデンチャー研究所」を主宰する小峰歯科医院（埼玉県）の小峰一雄院長と出会う。「小峰先生から予防の大切さとノウハウ、そして“痛くない、抜かない、削らない”のフレーズを教えていただいたことで、私の目指す歯科治療は明確になったのです」

痛みを軽減する機器や技術は 躊躇なく積極的に導入

高島歯科クリニックでは、原因の分析から対処法までトータルに診られる治療方針を掲げている。そのために欠かせないのが、最新の治療機器だ。現在、活躍している機器の

一部を紹介しよう。

●無痛麻酔器

注射針が体内に入ると圧力を感知し、一定量の麻酔液を自動的に注入する。麻酔針に最も細いタイプが使用できること、注入のペースを歯肉の圧に合わせてコントロールできることから、患者の負担を大幅に軽減できる。スムーズに麻酔が行われるため、麻酔液が注入されたことに気づかない患者もいるという。

●超短波治療器

30～300MHzの超短波を用いることで、血管を拡張させたり、鎮痛・鎮静作用、殺菌・抗毒素作用、抗炎症作用を促進させる。これらの働きにより、歯肉炎や歯周病の痛みが軽減したり、インプラントの骨結合や矯正治療後の歯牙移動などが促進される。

●ウォーターレーザー

水分子の力によりレーザー光のスピードが加速されるため、痛みを与えずに歯や歯肉を切開できる。ドリルのような音や削りカスの汚れもないことから、患者の恐怖心もやわらげられる。

●パーフェクトペリオ

高濃度次亜塩素酸水を歯周ポケットに注入することにより、瞬時に除菌ができるため、炎症もすみやかに抑えられる。

●高周波治療器

歯周病の要因には、血行不良による免疫力の低下もあると考えられている。そこで、高島歯科クリニックでは、体温を上昇させ、血流をうながす作用がある高周波による治療も取り入れている。

高い吹き抜けの広々とした診療室



ユニークなデザインの外観



木を多用し、椅子の色にも気を配った待合室

正面にモニターを備えたユニット回り



家具を仕切り代わりに使用



専用のカウンセリングルーム



落ち着いた雰囲気個室も用意



女性に人気の歯磨きなどを並べたグッズコーナー



安日院長とスタッフのみなさん

滅菌専任を置くことで 感染予防にも力を入れる

削らない治療を考えたとき、次のステップとして予防も重要になる。高島歯科クリニックが積極的に取り組んでいるのは、パーフェクトペリオの導入からも分かるように、口腔内の除菌を取り入れた予防だ。加えて、院内の感染予防にも力を入れている。

ユニークなのは、どのように院内を除菌しているか、感染予防の様子をホームページの動画で紹介していることだ。患者にすれば、歯科医院の舞台裏を見ることで信頼感が増す。

じつは高島歯科クリニックには、滅菌を専任する歯科衛生士がいる。個人の歯科医院では全員で滅菌を行うケースが多いが、安日院長は、あえて専任を置くことにした。

「全員でたずさわる方式は、全員の意識が向上するメリットもありますが、責任の所在があいまいになるデメリットもあります。そこで、専任を設けてみたところ、リーダーが他のスタッフを指導する過程を通じて、不潔と清潔の違いが明確になり、全員の意識が向上することになったのです」

クリニカルコーディネーター2名の常駐で 密なコミュニケーションを図る

もう一つ、特筆すべきなのは、クリニカルコーディネーターが2名いることだ。クリニカルコーディネーターとは、医療側と患者の間を取り持つ職種のこと。治療の内容を患者に説明したり、患者の疑問や悩みに応える。ときには、不満の聞き役になることもある。高島歯科クリニックでは、歯科衛生士と歯科助手をクリニカルコーディネーターとして専従させている。歯科治療が複雑化し、ニーズが多様化するなかで、重要な役割を果たす職種だが、専従者を置くことは経営のコストアップになるため、勇気がいる。

「しかし、院長や歯科衛生士には、当日の治療以外の話はしにくいものです。結局、その他の疑問や悩みは受付で相談することになる。受付で解決できればいいのですが、なかには専門知識が必要になることもあります。患者さんのニーズを考えると、専任者を設け、疑問や不安には的確に応える体勢を整えるべきなのです」

思わぬメリットもあった。クリニカルコーディネーターを置くことによって、治療内容を詳しく説明することができる。その結果、自費診療が自然と増えることにつながったという。

現在、高島歯科クリニックでは、口腔内の健康を全身的な視点からチェックしようとの考えから、食事指導にも取り組んでいる。「食に目を向けるようになったのは、私自身、食生活を改善することで、体調不良を脱した経験があったからです。これからの歯科医師は、全身の健康状態も把握した上での口腔ケアが求められると思います。その意味で今後は歯科治療において、食事指導の必要性も高まるのではないのでしょうか」

Profile

安日 純先生

- 1983年 松本歯科大学卒業 ●1997年 高島歯科クリニック開院
- 日本抗加齢医学会 ●日本歯科免疫療法研究会 ●日本臨床歯周病学会 ●日本歯周病学会 ●日本顎咬合学会 ●国際歯周内科学研究会 ●LSTR研究会

高島歯科クリニック

住所：山形県東置賜郡高島町大字上平柳2099-2

TEL：0238-58-0814 HP：http://www.takahatasika.com/

デンタル世界紀行

Vol.2

タカハシ・デンタルオフィス 院長 高橋 登 先生



高橋 登 先生

欧米の学会等に参加経験が豊富なタカハシ・デンタルオフィス院長の高橋登先生に最新の欧米事情をレポートしていただく第2回。今回は、少数精鋭の雰囲気を持つ学会の様子を教えていただきました。

前回は世界最大の審美歯科ミーティングアメリカのAACDをご紹介しましたが、今回は対照的に少数精鋭の雰囲気をもった、EAED（ヨーロッパアカデミー・オブ・エッセティックデンティストリー）とAAED（アメリカンアカデミー・オブ・エッセティックデンティストリー）をレポートしましょう。審美歯科系では世界最高峰と評価される両学会ですが、講演で活躍されていたり、アカデミーで質の高い研究をされている方ばかりでメンバーは構成されています。EAEDは今年、ドイツのバーデンバーデンで開催されましたが、本当に美しい街で、温泉もあり、バケーションには最適です。講演よりもパーティーが中心かと思われるほど充実した夜を過ごしました。講演で興味深いところはスタディークラブなどで良く見かけるケースプレゼンとディスカッションが行われることです。色々なフィールドで活躍している著名な先生方が自由に発言しますから、收拾がつかなくなりそうですが、夜な夜な繰り広げられるパーティーの成果が出て、お互いを尊重し、うまく会場がまとまりました。AAEDでは審美矯正で有名なDr.Kokichが「効果的な講演・プレゼンテーションのテクニック」をテーマに基調講演を行いました。プレゼンテーションの構成から、時間配分、スライドの編集手法など、学会発表やシンポジウムなどプレゼンテーションを今から始めるドクターが聴衆にいれば、絶賛の講演でしたが、大変残念なことに、この学会に参加しているメンバーは、ほとんどが著名な講演家なので、あまり良い感想は聞かれませんでした。しかし、プレゼン法の質の高い卒業研修を受ける機会は少ないので、今後は講演依頼があるかもしれません。Dr.Kokichがそこまで読んでいたとすれば、この講演は成功です。

また、学会ではありませんが、ヨーロッパにて「Rapid Prototype」(写真右下)なる先進技術を発見しました。CAD/CAMのように削り出すのではなく、レーザーなどで樹脂や金属粉末を材料にして、立体を直接成形するカスタムメイドに最適な工法で、製造業界では急速に普及が進み、既にCAD/CAMのシェアを超えています。医科領域では人工関節などが臨床導入されていますが、歯科ではドイツにて補綴、外科領域で試験が行われています。写真のサンプルはコバルトクロム粉末をレーザー光線で焼き固め造られています。

現在、世界の審美歯科の潮流において、インプラント、インターディシプリナリーアプローチ、審美的レストレーション(コンポジット、CAD/CAM)、この3本に勢いが感じられます。日本でも世界の流れをみすえた上で、独自の発展を期待したいと思います。



■ EAED開催地
ドイツ、バーデン・バーデンの街並みは昼も夜も本当に美しい



■ EAEDケースディスカッション
飛び交うコメントを必死でまとめる司会者。世界最高峰の審美ディスカッション。質問をしているのはベニアの権威 Dr. Gürel.



■ ヨーロピアン・アカデミー
毎夜繰り広げられるパーティー



■ AAED イブニングパーティーにて
Douglas Terry 先生と参加してきました。大変にお世話になっています



■ Rapid Prototyping Cr-Br サンプル
お問い合わせ
NTTデータエンジニアリングシステムズ
RP システム部

SASAKI

お問い合わせ・ご意見:「C&C」事務局 細谷俊寛

FAX 0120-566-052 <http://www.sasaki-kk.co.jp>

Vol.14 December 2007 発行:ササキ株式会社 東京都文京区本郷3-26-4 ササキビル4F

●本誌に記載された個人の氏名・住所・電話番号等の個人情報の悪用を禁じます。●本誌の記事・写真・図版等を無断で転載・複製することを禁じます。